

令和5年度 第3回梅坪台地域会議 会議録

- **日時** 書面開催
(令和5年6月13日(火)に実施を予定していた地域会議について、協議内容に鑑み、書面開催とした。)

- **委員氏名**

大谷 忠司	白井 満	杉浦 隆
鈴木 重久	長江 秀昭	松川 幸江
三岡 英隆	森田 實	諸岡 裕一
山村 史子	山本 孝宏	依田 武人

- **内容**

- 1 **答申書(案)の検討について**

- **協議事項**

- 1 **答申書(案)の検討について**

前回の会議で協議した「高齢者の社会参加の促進に関する取組」における具体的な取組を基に作成した答申書(案)について、以下のとおり意見が挙げられた。

- (1) **答申書(案)の記載について**

- ・答申書(案)の内容については、特に問題ない。
 - ・「実施主体」の表が「参考」となっているが、「課題取組実施主体」として捉えた答申資料表現が良いように思う。
 - ・「参考」の表の見方がよく分からない。

- (2) **新たな取組案について**

別紙のとおり。

- 【結論】**

次回の地域会議では、今回挙げられた意見を反映した答申書(案)について、協議を行う。

- **今後の予定**

令和5年度第4回梅坪台地域会議 ➡ 書面開催の予定

課題①活動に関する情報が届かない

- (1) ・情報を紙媒体だけではなく、動画などでも周知することで、注目度や理解度アップが期待できるかもしれない。
 ・HPでは高齢者が見ない可能性も高いため、「60歳からの社会参加」というリーフレットを作成し、「健康」「趣味」「ボランティア」「自治区活動」など分野別の推奨記事を掲載し、配布するのはどうか。
- (4) ・自助・共助・公助の観点で言えば、「自助努力」が目的である。「介護予防・健康づくり」を達成するためには、「自助努力」が一番大切と考える。
- ↓
- ①高齢者自身が自分の意志で行動を起こす（買い物、ゴミ出し、図書館など）
 ②誰かとつながる・輪が広がる
 ③公の施設を利用・活用につながる
 ④共助の世界が広がる
- これらが達成できるような仕組みづくりを大切にしたい

課題②物理的な制約

- ・活動場所が、駅やバス停など公共交通機関に近いところだと行きやすいとも思う。

課題③人間関係の問題・活動についていく自信がない・興味関心がない

- (2) ・年配者の方に過去の話題をすると、生き生きと話す方が多いと感じる。町の変遷や個人の歩んできた中での思い出などを聞かせて頂くような活動も効果があるように思う。（地域史作成や自慢話大会開催など）
 ・イベントとしては、昭和の世界を前面に出した催しは参加しやすいと思う。
 ・高齢者クラブ主体の取組があるとよいのではないか。
- (4) ・趣味がコレクターの方にとっては、人に見てもらえる機会が少ない。収集のレベル関係なく、気軽な展示の場があると喜ばれると思う。
 ・得意分野の開拓ができるといいと考える。「社会参加の目安の提示」や「やりたいことの発信の場の提供」について、自治区だけではなく、市全体で募集してもよいと思う。